

このページはボランティアの市民の方が取材・作成しています

すこいぞ! あま市

コミュニティ編 VOL.7

令和元年11月26日(火)市民活動センターにあま市の未来を本気で考える人々が集結!
第3回コミュニティ交流会において、講師 川北秀人氏 の講義を受けました。

『自治を回復し、まち・むらの課題を、まち・むらの力で解決するために ～協働から総働・小規模多機能自治へ～』

今後は、急速な高齢化や財政難に立ち向かうために、人任せにしないで、住民1人ひとりがやれることを進んでやる。そんな地域が不可欠となります。

【講義のまとめ】

☆まちの力は、関係の密度がつくる。

住み続ける地域の未来のために、本当に大切なことを実現できるよう尽力を尽くす。出し惜しみしない。できないふりをしない、あきらめない、「誰かがどうにかしてくれる」なんて甘えない。

☆自治とは、自分(たち)で決めて、自分(たち)で担うこと。

これまでと違う判断と取組みが不可欠。住民すべて(女性や若い世代も)の意見を自治に反映させる。「若い人」の都合も考える。

☆理想を追いつつ、課題解決も。小規模でも多様な機能を担える地域に。

人口より課題が増える時代・社会は、「これまで通り」では歯が立たない。「気付かないふり」が、判断と行動をさらに遅らせる。『頭も、心も、柔らかく』

☆いのちと暮らしを守る住民自治

災害対策は近々の課題。地域の特性を知り、地域の変化を見越した事業と組織を考える。



漆部神社鳥居から
見える甚目寺観音三重塔

令和元年に行われた
フォトコンテストの優勝作品

地域課題が山積する中、令和元年9月7日甚目寺コミュニティ協議会が発足しました。甚目寺地区は、町内会加入率が30%程。地域のつながりが希薄な地域です。それでも、このままではいけないと立ち上がったメンバー(歴代の区長、町内会長など)が集結し、37歳の若いサラリーマンをトップに始動しています。そこには、SNSなどでつながった地域の若いクリエイターも巻き込み、さまざまなチャレンジをしています。柔らかな発想・軽やかな動きで地域を活性化。もちろん、何事も簡単ではありません。メンバーがお互いに励まし合い、失敗を経験に変えて前に進んでいます。

『つなぐ・たす』を基本に。



【ウェブサイトのQRコード】

現在は、4月12日(日)に行われる『春まつり』に向けて、準備中。「ボランティアにぜひご参加ください。アイデアをお待ちしています!」とのこと。ウェブサイトも開設。今回のコミュニティ交流会の講義で、触発された方も多く、さらに地域活性化が加速されることが期待されます。

■編集後記■

人口統計のお話がありました。市の特徴として、40代50代が少ないそうです。私50代、人任せにできないのです。そしてこの流れが他地域での、若い力の発掘に波及するといいなあと思います。

by 市民記者 あみゆ

